DMD 情報共有冊子

大学進学編

～自分らしい進路の選択～

『はじめに』

当院の身体リハビリテーション部には、幼児から成人まで、多くのデュシェンヌ型筋ジストロフィー（以下 DMD）の方が定期的に通院されています。

私たちは長年にわたり、作業療法を通じて皆さまをサポートしてきました。私たちの役割の一つは「情報の橋渡し役」です。
皆さまの経験や日々の生活での工夫は、他の患者やご家族にとって貴重なヒントとなります。そのような情報を適切なタイミングで提供することを心掛けています。

今回は「大学進学」に焦点を当て、これまで蓄積してきた情報をより多くの皆さまと共有するために、この冊子を作成しました。
近年、当科に通院する DMD の方々が、特別支援学校高等部や公立・私立高校を卒業後の進路として、大学進学を珍しい選択肢ではなく、自分らしい進路として考えるようになってきています。
毎年春には、何名かの方から進学の報告を受けています。

そこで、大学進学に向けた準備や大学生活をより具体的にイメージできるよう、先輩の方々からの情報を集めてまとめました。

この冊子が、皆さまの学校卒業後の進路を考える際の一助となれば幸いです。

2025 年 1 月
国立研究開発法人　国立精神・神経医療研究センター病院
身体リハビリテーション部　作業療法士
吉田智美　上村亜希子　山野真弓

脳小児神経科の先生方から

ひと昔前は大学に行ける力や意志があってもハードルが高いと言わざるを得なかった大学への進学ですが、年々大学生になる方が増えていて、医療を提供する立場からもとてもうれしく、かつ心強く思っています。

その一方で進学を考える際に様々な課題が残されていることも現実と思います。この冊子に記載されているように、適切な情報をもとに先輩方が苦労されたことやアドバイスなどを共有したうえでそれぞれの進む道を考えてください。

成人期になっても楽しく、生きがいをもって人生を送られるために私たちもこれからもサポートしていきます。

脳神経小児科　診療部長　医師　小牧宏文

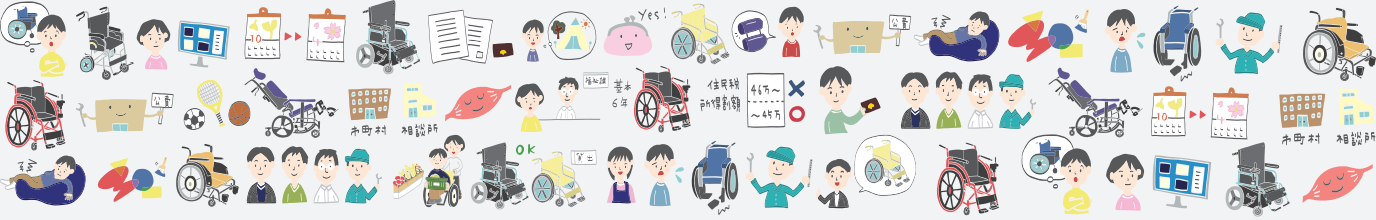
大学進学に関しては、大学環境や学びたい内容などによって個別に検討することが沢山あるかと思います。これまで経験されてきた方々のお話を伺うことで、これから大学進学について検討される皆様のお役に立てる冊子と思います。

脳神経小児科　医長　医師　本橋裕子

大学は、高校までよりも専門分野、教育方針の個性や選択の幅が広がる場です。この冊子は、大学進学を考える上での準備から実際に通学されている方々の経験談も含めて、とても参考になる内容です。

皆さんが得意なことや夢を叶えるための背中を押してくれる一冊だと思います。是非ご一読ください。

脳神経小児科　医長　医師　竹下絵里



目次

第１章　当科ＤＭＤのみなさんの大学進学状況Ｑ＆Ａ

1 どれぐらいの方が大学に進学していますか？ ...10

2 進学先の大学について教えて下さい。...10

3 大学選びはいつ頃から行いましたか？ ...10

4 大学進学者の身体機能について教えてください。...11

5 大学進学者の学歴について教えてください。...11

6 大学生活を送るために大学側の支援や社会資源の利用をされていますか？ ...11

7 大学卒業後の進路について教えて下さい。...12

第２章　ケース紹介

1 学問とサークル活動に励み充実した大学生活を送ったＡさん ...14

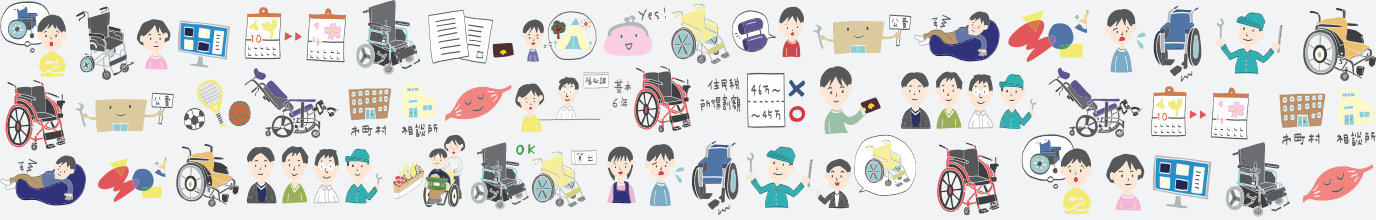
2 重度訪問介護利用者の大学修学支援事業を利用し大学生活を送るＢさん ...16

3 特別支援学校から通信制の大学へ進学したＣさん ...18

4 通信制大学に通いながら法律関係の就労を目指すＤさん ...20

5 自宅から通いやすい希望の大学に合格したＥさん ...22

6 インタビューにご協力頂いた他先輩方からのメッセージ ...24



第 3 章　大学進学・大学生活に関する情報

1 障害のある学生への社会制度と支援 ...26

① 国や自治体が提供する社会制度
② 最近の動向　障害者白書「令和 5 年度障害者施策の概況」より
③ 障害学生支援における具体的な取り組み

2 入試の準備～大学入学まで ...31

① 入試の手続き
② 大学合格後の支援体制の整備と調整

＜付録＞ 障害がある学生の大学進学に関するサイトや支援団体 ...33

「大学に進学したいけれど・・・」

・DMD のみなさんの中で大学進学をしている人はいるの？
・自分の障害を考慮してくれる大学はあるの？
・特別支援学校からの進学はできるの？
・大学進学を望む気持ちはあるけれど、十分なサポートは受けられるの？
・入試から入学までどう動いていいのか不安・・・。

このような声に応えるため、今回は「大学進学」に焦点をあてています。

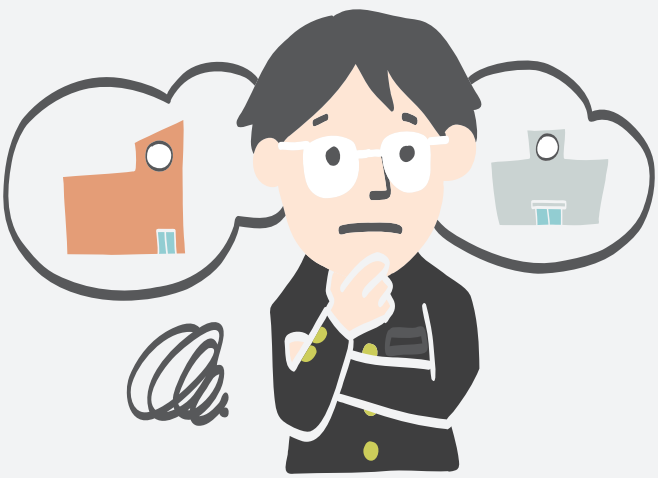
高校卒業後の進路は様々です。
自分にあった、自分らしい進路の選択をすることが大切です。
今回の「大学進学」はその選択肢の一つとなります。

第 1 章

当科 DMD のみなさんの大学進学状況　Q&A

第 1 章のポイント

本章では、DMD の皆さんの大学進学状況について解説します。
2022 年度時点で外来通院歴のある約 40 名が大学進学または卒業しており、在学中の方は 12 名です。
進学先は多岐に渡り、進学準備は高校 1 年次から始めるケースが多いです。
進学者は重度の身体機能障害があり、ほぼ全員が大学側の支援や社会資源を利用しています。



Q1 どれくらいの方が大学に進学していますか？

A 2022 年度時点で、外来通院歴のある方のうち、大学進学および卒業した方は約 40 名、現在在学中の方は 12 名です。

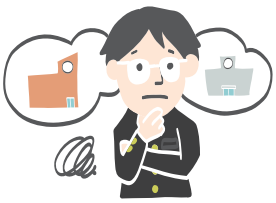
毎年、何名かは高校卒業後の進路として大学に進学しています。

Q2 進学先の大学について教えてください。

A 以下に当科で把握している皆さんの進学先を記載します（五十音順）。

＜国公立＞
茨城大学、筑波大学、電気通信大学、山梨大学
＜私立＞
神奈川大学、神奈川工科大学、駒澤大学、サイバー大学、社会事業大学、上智大学、専修大学、大同大学、玉川大学、中央大学、帝京大学、東海大学、東京経済大学、東京工科大学、東京都市大学、東京通信大学、東洋大学、日本工業大学、放送大学、目白大学、立教大学、和光大学、早稲田大学
進学先は多岐にわたります。

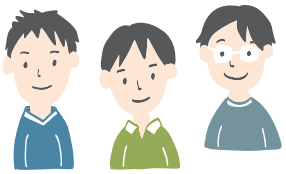
Q3 大学選びはいつ頃から行いましたか？



A 高校 1 年次から大学進学を視野に入れて考えている方が多くいます。

2 年次にオープンキャンパスに参加し、大学側の受け入れ体制などを確認した上で、ある程度受験先を決める方が多いようです。

4 大学進学者の身体機能について教えてください。



A 身体機能には個人差がありますが、皆さん重度の身体機能障害があります。

大学進学時には、食事や机上での活動以外では日常生活の動作に多くの介助が必要で、簡易あるいは電動車いすを利用している方が大部分を占めています。人工呼吸器の使用については、必要がない方もいますが、夜間のみ使用している方が多いです。

5 大学進学者の学歴について教えてください。

A 大学進学者の学歴は、「普通高校出身者」も「特別支援学校出身者」も関係なく大学に進学しています。

6 大学生活を送るために大学側の支援や社会資源の利用をされていますか？

A はい、ほぼ全員が何らかの大学側からの支援を受けています。

また、社会資源を利用している方もいます。大学側の支援は、支援体制や利用できる社会資源には違いがありますが、「障害者差別解消法」に基づき、個別のニーズに応じた合理的配慮（ハード面・ソフト面でのサポート）が受けられる大学が増えています。社会資源の利用については、「障害者総合支援法」による重度訪問介護利用者の大学修学支援事業が普及しつつあり、通学や大学生活に伴うサービスの利用が増えています。

※支援や社会資源に関する情報は、「第 3 章 大学進学・生活に関する情報」をご覧ください。

Q7 大学卒業後の進路について教えてください。

A 卒業後の選択肢は多岐にわたります。

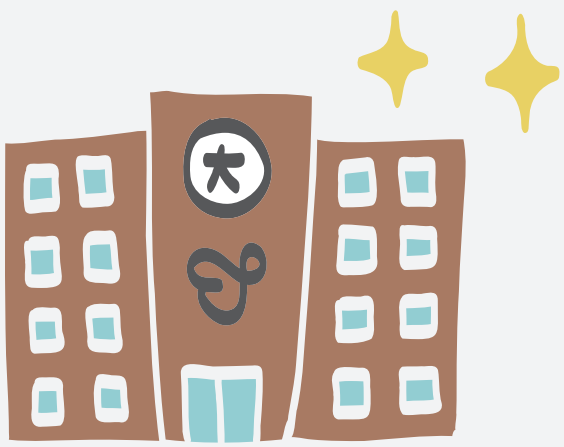
大学院に進学する方、工学関係、IT・ウェブ関係、デザイン関係、イラストレーターとして就労する方などさまざまです。また、就労を選択しない方もいます。

第２章

ケース紹介

第２章のポイント

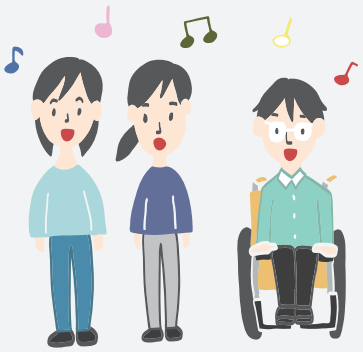
本章では、当院外来に通院中の DMD の方々の中から、実際に大学進学を果たした 5 名の方にご協力いただき、インタビューを行いました。既卒および現役大学生の皆さんの実際の声をお届けします。
プロフィールは、大学進学時点の状況を記載しています。
（2023 年度インタビュー実施）



1.「学問とサークル活動に励み充実した大学生活を送った A さん」

公立高校から国立電気通信大学へ進学し、現在は大学院生の A さん。
高校入学当時は、障害者総合支援法や合理的配慮が十分に浸透していない中、介助員の配置や移動支援を利用して高校生活を送りました。
大学進学後も持ち前の交渉力を発揮し、学内の支援や地域のサービスを巧みに活用し充実した大学 4 年間を過ごしました。

プロフィール



- 20 代　男性
- 東京都在住　家族と同居
- 公立高校卒業
- 日常生活：全般に介助が必要
- 移動手段：電動車椅子
- 呼吸器の使用：大学 4 年生から夜間のみ使用

学校選び～入試まで

・大学進学理由・動機

研究者になりたいという夢があり、生命科学や物理学についてより深く学びたかったため。
周囲の同級生たちが皆大学に進学する環境もあった。

・受験大学の検討時期

高校 1 ～ 2 年生頃から近隣大学のオープンキャンパスに参加した。高校 3 年の夏頃には、大学側に支援体制や身体機能について具体的に相談しながら第一希望の大学を決めた。

・受験対策

高校の授業での試験対策、大学入学共通テストや一般選抜試験の過去問を解き、模試を定期的に受けるなどの一般的な受験対策を行った。

・入試方法

大学入学共通テストと一般選抜試験を受験した。

・入試の際の合理的配慮について

高校 3 年生の秋頃に、大学入学共通テストと受験大学に対して合理的配慮の要望をした。具体的には、①車椅子に合う机の高さにすること、②選択式問題をマークシート以外の形式で回答すること、③トイレまたはエレベーターに近い教室・席を用意すること、④介護者の付き添いを可能にすることを要望した。
また、大学入学共通テストでは出願前に資料を取り寄せ、診断書などの書類を用意した。
各大学についても出願前に問い合わせをし、所定の書類を準備した。

・合格後から大学入学までに行ったこと

大学側へ具体的な環境整備と介護体制に関する配慮事項についての申請書を提出した。

学生生活

・学部・学科・学んでいること

電気通信大学 情報理工学部 先進理工学科 応用物理工学コースに進学。主に物理学と電子工学・光工学を学び、それらを応用した研究を行った。

・校内での ADL（日常生活動作）について

配膳、移乗、教科書類の出し入れに介助が必要であった。排泄は尿器の受け渡しと洗浄の介助があれば自力で排尿が可能で、排便は介助が必要であった。

・合理的配慮・社会資源の利用について

①合理的配慮

ハード面

教室の机、情報演習室の机、食堂の机の一部を高さ調節可能なものに変更してもらった。
講義教室の机と椅子の一部を撤去して車椅子用のスペースを整備してもらった。

ソフト面

大学予算による合理的配慮としての介助者派遣を利用した。授業中およびその前後に授業の準備や排泄・食事などの支援を受けた。授業ではない研究室での活動は研究室メンバーによる支援を受けていた（謝金あり）。

②社会資源の利用

・通学について

3 年生までは電車を利用し一人で通学していた。雨の日は親が車で送迎した。4 年生以降は同じルートでヘルパーを利用して通学した。

・部活動やサークル活動の参加について

合唱団に所属し、入学から 4 年の間は排泄介助が最低限で済んだので、ヘルパーを使わずにメンバーの助けを受けながら活動した。飲み会などにも参加した。このような形での活動への参加は病気の進行度から考えると、ぎりぎりのタイミングで可能だったと思っている。

卒業後の進路について

同大学の大学院へ進学した。特に大学の就職支援は利用しなかった。就職支援部門は通常の学生や精神障害、比較的支援を要さない身体障害を有する学生に対する支援は充実しているものの、生活上の支援を必要とする学生に対しての支援体制や知識は不足していると感じたため。

大学生活を振り返って

進学先の大学は受け入れに積極的であった。大学生活で良かったことは、好きなことを究め、学問と研究に触れたこと。また、サークルを通して趣味の世界が広がった。困ったことは、介助者がいると他の学生との接点が少なくなり、友人関係の構築が難しかったこと。在学中の介助員の配置不足など支援体制が不安定で、体制を立て直すことに気を取られやすかった。大学の支援だけでは足りず、親の支援も必要であった。

大学進学を検討する後輩の皆さんへ

大学での支援は漸進的に広がっているので、ぜひ大学での青春を体験してほしいと思います。その後の進路についても、多様な方向性を開拓していってほしいです。

2.「重度訪問介護利用者の大学修学支援事業を利用し大学生活を送る B さん」

公立高校から、私立東京都市大学へ進学。現在、在学中です。
大学進学を検討するタイミングで、居住地域で重度訪問介護利用者の大学修学支援事業が実施されることを知り、進学することを決意しました。通学や学校内での活動でヘルパーを利用しつつ、日々沢山の刺激を受けながら学生生活を送っています。

プロフィール

- 20 代 男性
- 神奈川県在住 家族と同居
- 公立高校卒業
- 日常生活：全般的に介助 重度訪問介護を利用
- 移動手段：電動車椅子
- 呼吸器の使用：なし

学校選び～入試まで

・大学進学理由・動機
高校卒業後すぐに就労したくなかった。重度訪問介護利用者等大学支援事業が居住している市で開始されたことを知ったため。

・受験大学の検討時期
高校 2 年生頃から大学進学を意識し、気になっていた大学のオープンキャンパス 1 校のみ参加した。その際に、受け入れ可能かどうかを確認した。その大学は車椅子ユーザーの前例があることが分かった。

・受験対策
高校の勉強を頑張った。体育の授業で不利にならないように課題を変えて評価してもらった。

・入試方法
大学ごとの一般選抜試験を受験した。

・入試の際の合理的配慮について
出願後に受験当日使用する机の準備をお願いした。受験場所や受験時間等の配慮は特に申請しなかった。

・合格後から大学入学までに行ったこと
入学式の後に時間を設けてもらい、大学担当者に入学後の配慮や身体機能について伝えた。内容としては、①教室の配置　②使用可能な机の形状と高さ　③ヘルパーの付き添いが可能かどうかを確認した。字を書くときに寄りかかれる高さが必要であったため、そのような机を用意してもらった。

学生生活

・学部・学科・学んでいること

東京都市大学横浜キャンパス 環境学部 環境経営システム学科

・校内での ADL（日常生活動作）について

排尿は尿瓶を使用し排便は介助で実施。昼食は学食にて介助で行うか、自宅が近いため自宅に戻り食事をしていた。

・環境整備・社会資源について

①具体的な環境整備

ハード面

車椅子でも使用可能な机を用意してもらった。授業を受ける教室の配置を変えてもらった。車椅子用トイレは建物ごとに 1 箇所ずつあった。

ソフト面

特になし。

②社会資源について

居住する自治体で実施している「重度訪問介護利用者等大学支援事業」を利用している。通学と大学内の活動においてヘルパーの利用が可能になっている。基本的には月～金曜日の授業がある時に 1 日 5-6 時間利用している。3 カ月に 1 回の頻度で利用計画相談をし、大学の時間割に合わせてヘルパーを利用する時間を決めている。

・通学について

入学後半年間は、コロナ禍のため自宅でリモート授業を受けていたが、途中から通学が必要となり、電車通学に変更となった。大学 3 年生頃からは、大学の徒歩圏内にアパートを借りて家族と同居し、現在はヘルパーの付き添いで通学している。

・部活動やサークル活動の参加について

参加していない。

卒業後の進路について

オンラインで行える事務系の仕事に就きたいと思っている。

現在までの大学生活を振り返ってみて

大学に行って良かったことは、外に出る機会が増えたことで沢山の刺激が得られ楽しいこと。困った点としては、重度訪問介護と大学支援制度を組み合わせて朝から晩まで基本的にヘルパーを利用しているため、大学が夏季休暇などで通学しない期間はヘルパーが使える時間が少なくなってしまうこと。

大学進学を検討する後輩の皆さんへ

大学に通うことは難しいとあきらめてしまうのはもったいないと思います。制度をうまく活用して大学進学も選択肢として考えてほしいです。

3.「特別支援学校から通信制の大学へ進学したCさん」

特別支援学校から私立早稲田大学に進学し、現在在学中です。
当初は通学制の大学を検討していましたが、不安があったため、最終的に通信制の大学を選びました。大学の授業はオンデマンド形式であるため、重度訪問介護と通所介護を利用しながら、自分のペースで空いた時間を有効に活用して勉強しています。

プロフィール

・20代 男性
・東京都在住 家族と同居
・都立の特別支援学校卒業
・日常生活：全般的に要介助　重度訪問介護を利用
・移動手段：電動車椅子
・呼吸器の使用：夜間のみ使用

学校選び～入試まで

・大学進学理由・動機
福祉工学に興味を持ち、専門的なことを学びたいと思ったから。
大学を調べていく中で、福祉工学の研究をしている教員が所属する通信制の大学を見つけたため受験したいと思った。

・受験大学の検討時期
高校2年生の夏頃にオープンキャンパスに3校ほど行った。
住んでいる場所から通いやすい場所にある大学を中心に探した。当初は通学することを考えていたが、色々と見学するなかで通学するのは大変だと感じ、通信制で学ぶことができる大学を探すことにした。

・受験対策
試験内容は書類審査と面接だったため、志望理由書を書く練習と面接対策をした。
特別支援学校の先生が書類の書き方や面接練習の協力をしてくれた。

・入試方法
大学ごとの一般選抜試験を受験した。一次試験は書類審査で二次試験は面接だった。

・入試の際の合理的配慮について
受験する前に大学側と直接話をして、配慮申請の書類を事前に提出した。
具体的な内容は、通常は公共交通機関で試験会場まで行かなければならないが、自家用車で大学まで行けるようにすることと、試験会場への家族の付き添いについて申請を行い、許可を事前に得た。

・合格後から大学入学までに行ったこと
通信制だったため、特に話し合っていない。

学生生活

・学部、学科、学んでいること

私立早稲田大学　人間科学部　通信教育課程　健康福祉科学科
オンデマンドで授業に参加。１週間ごとに課題を提出している。

・在学中の ADL（日常生活動作）について

排泄やちょっとした身の回りのことに介助が必要。

・環境整備・社会資源について

①具体的な環境整備

ハード面：

現状は通信制のため配慮は特に求めていない。ただ、今後ゼミのため通学する機会がある。建物はバリアフリーで車椅子用トイレ、エレベーターが設置されているが、大学の周囲に坂があることが不安要素。

ソフト面：

特になし。

②社会資源について

重度訪問介護と生活介護を利用。

・通学について

通信制のため通学していない。今後ゼミが始まったら、電車と大学の最寄り駅から出ているスクールバスを利用して通学する予定。

・部活動やサークル活動の参加について

大学での参加はなし。居住地域にあるボッチャのチームに所属し、月２- ３回練習に参加している。

卒業後の進路について

まだ漠然としているが、福祉系の会社に就労したいと思っている。

現在までの大学生活を振り返ってみて

大学に行って良かったことは、通信制のため自分の生活リズムに合わせて勉強できること。
困った点としては、同年度に入学した人となかなか会えないこと。通信制のため他の学生との交流ができない。しかし、直接ではないが LINE や大学のオンラインシステムや掲示板での交流はある。

大学進学を検討する後輩の皆さんへ

大学進学はモチベーションがないと難しいと思います。僕は学びたい意欲があったので進学しました。皆様も、まずは自分がやりたいことを見つけて努力していくと良いと思います。

4.「通信制大学に通いながら法律関係の就労を目指す D さん」

公立高校から、私立中央大学へ進学。現在在学中です。
地方から都心部への通学が難しいことから通信制の大学を選択しました。
通信教育では、主体的に動いていかなければならない大変さを感じているようです。
将来は法律関係の仕事に就くことを目標に、日々勉強しています。

プロフィール

・20 代 男性
・山梨県在住 家族と同居
・公立高校卒業
・日常生活：入浴以外は自立
・移動手段：電動車椅子
・呼吸器の使用：なし

学校選び～入試まで

・大学進学理由、動機
高校の途中までは理学部など理系の進学先を考えていたが、途中で難しさを感じたため理系から文系に転向し、以前から興味のあった法律関係の進学先を選択することにした。
住まいが東京であれば通学でもよいが、山梨から行きたい大学に通学するのが大変なため通信制の大学を選択した。中央大学に通信教育課程があることを知り検討した。

・受験大学の検討時期
高校 2 年生頃から大学進学を意識して動きだした。地元や都内の大学をいくつか見学した。オープンキャンパスの際に、就学支援室という部署に相談をして、大学のバリアフリー情報やどの程度の配慮が可能なのかを確認した。

・受験対策
願書と志望理由書の提出が必要だったので準備をした。

・入試方法
大学ごとの一般選抜試験（願書と志望動機理由書のみ）を受験した。

・入試の際の合理的配慮について
特になし。

・合格後から大学入学までに行ったこと
通信教育課程のため大学側と特に話し合っていない。

学生生活

・学部、学科、学んでいること
私立中央大学　法学部　通信教育課程

・在学中の ADL（日常生活動作）について
入浴介助サービスを週 2 回利用、その他は自立。
登校した際は尿瓶を利用して排泄している。

・環境整備・社会資源について
①具体的な環境整備
ハード面：
特になし。

ソフト面：
基本的には自宅でオンライン授業だが、登校した際は、教材の出し入れや上段の物が取れないなど不便がある場合には周囲の人に頼んでいる。

②社会資源について
特になし。

・通学について
基本的には自宅でオンラインが多いが、たまに通学することもある。その際には電車を利用し、家族の付き添いまたは一人で通学している。

・部活動やサークル活動の参加について
参加していない。

卒業後の進路について

できたら司法試験を受けて法律関係の資格を取り、就労にいかしたい。

現在までの大学生活を振り返ってみて

進学して良かった点は、スクリーングが夏頃にありオンラインだけでなく大学で授業を受ける機会があったこと。実際に大学に足を運ぶことで刺激を受け、やる気に繋がった。
また、大学の授業後に兄の家に泊まり東京観光することも気分転換となってよかった。
大変だった点は、通信制なので一人でレポート作成や授業を受ける必要があり、分からないことがあるときは主体的に動かなければならないこと。通信制は自分の時間が持てるのは魅力的だが、それに伴う責任もあると感じている。

大学進学を検討する後輩の皆さんへ

学びたいことがあれば是非進学してほしいと思います。
通学が難しいと思ったら通信制も選択肢の一つです。

5.「自宅から通いやすい希望の大学に合格したEさん」

公立高校から私立神奈川大学に進学し、現在在学中です。Eさんは、自宅から通いやすく、バリアフリー対応の建物が整備されていることを理由に現在の大学に進学を決意しました。サッカーが好きで海外チームに興味を持ったことから、スペイン語を学びたいという思いも進学の動機となりました。大学生活と並行して、電動車いすサッカーチームにも所属し、充実した日々を送っています。

プロフィール

- 10代 男性
- 神奈川県在住 家族と同居
- 公立高校卒業
- 日常生活：食事、排泄は自立
- 移動手段：電動車椅子
- 呼吸器の使用：なし

学校選び～入試まで

・大学進学理由・動機

海外のサッカーチームが好きで外国語に興味があり、スペイン語を学びたいと思ったから。
希望の大学が自宅から通いやすい距離にあり、建物が新しく、バリアフリー対応であったため。

・受験大学の検討時期

高校2年生頃から意識しだした。3年生の初旬あたりにオープンキャンパスへ参加した。
気になる大学が2カ所あり、どちらにも参加した。

・受験対策

指定校推薦で受験。高校時代の成績が重要となるため授業を頑張った。
体育の授業については、不利にならないようにレポートで成績をつけてもらった。

・入試方法

指定校推薦をもらい受験した。内容は高校の成績・内申書による書類選考と小論文であった。本来は面接も予定されていたが、新型コロナウイルスの影響で中止となった。

・入試の際の合理的配慮について

高校の担任が大学側に車椅子を使用していることを事前に電話で話してくれ、車椅子が出入りしやすい位置・机の高さを配慮してもらった。

・合格後から大学入学までに行ったこと

大学側の担当者と入学前に直接話をした。トイレ便座の高さに配慮が必要であることを伝え、大学側に事前に対応してもらえる了承を得た。

学生生活

・学部・学科・学んでいること

私立神奈川大学 外国語学部 スペイン語学科へ進学。

・校内での ADL（日常生活動作）について

排泄は自立。昼食は自分で簡単に食べられるおにぎりなどをコンビニで買って食べている。

・合理的配慮・社会資源の利用について

①合理的配慮

ハード面：

新設したばかりの大学のため、キャンパス全体がバリアフリーだった。
トイレは車椅子と便座の高さが同じであれば自力での乗り移りが可能であるため、事前に高さを揃えてもらった。こちらから依頼はしなかったが、大学側が車椅子に対応可能な昇降式・移動式の机を全室に備えてくれた。

ソフト面：

机の高さ調整は友人が手伝ってくれる。

②社会資源の利用

利用なし。

・通学について

電車を利用し、片道約 15 分の距離を一人で通学している。

・部活動やサークル活動の参加について

大学のサークルには所属せず、市が運営する電動車いすサッカーチームに所属している。

卒業後の進路について

まだ検討中。学んだことを生かせるような仕事につけたらと考えている。

現在までの大学生活を振り返って

大学生活に関して良かったことは、自分の専攻したい科目を勉強して知識が増えたこと。困ったことはあまりないが、大学 1、2 年の頃は授業数が多いため通学や体力的な面で大変だった。

大学進学を検討する後輩の皆さんへ

大学進学を目指されるなら、まずは勉強を一生懸命頑張ってください。

6．インタビューにご協力頂いた他先輩方からのメッセージ

大学に進学して良かったこと・困ったこと

・周囲の友人や先生たちが良い人で恵まれていた。

・自分の好きな教科を学ぶことができたので良かった。

・トイレに時間がかってしまい授業をあまり取れなかった。入学時に尿瓶の存在を知っていればもう少し多く授業に出られていたと思う。

・コロナでオンライン授業が続いたので、授業に対するやる気がなくなってしまった。

・２月の合格発表後に行政機関に対し、大学進学することを伝えてサービス調整をしたので、4月からの入学だと調整時間が短く大変だった。入学当初は事業所の調整が間に合わず、母を中心に通学と排泄の支援を受けていた。できれば推薦入試で受験するなど早めに進路を決めて、相談に時間的余裕を持てるとよい。

後輩のみなさんへ

・せっかく大学に行くなら、きちんと学びたいことを決めてから行った方が良いと思います。

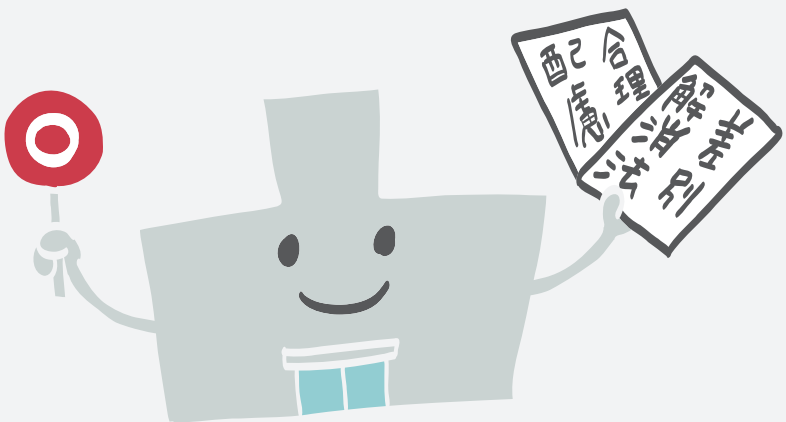
・学校の設備面や通学に利用できる福祉サービスを事前に調べておく必要があります。
１人で頑張ろうとせず、気軽に相談できる先生や学生がいると良いと思いました。

第３章

大学進学・生活に関する情報

第 3 章のポイント

本章では、障害を持つ学生を支援する制度や支援策について紹介します。「障害者差別解消法」や「合理的配慮」、「重度訪問介護利用者の大学就学支援事業」など、国や自治体が提供する制度の詳細を網羅し、入試の準備から大学生活に至るまでの現実的なイメージにつなげていただけたらと思います。地域や大学によって支援体制や受け入れ体制に差があっても、できるだけスムーズに進められるよう参考資料を多く掲載しています。



1．障害のある学生への社会制度と支援

国と地方公共団体、そして大学は、障害者の社会参加を促進し、自分らしい大学生活を送るための制度や支援策を提供しています。以下に、具体的な制度や支援の内容をご紹介します。

①国や自治体が提供する社会制度

ここで紹介する「障害者差別解消法」とその中で義務付けられている「合理的配慮」、さらに「重度訪問介護利用者の大学就学支援事業」は、大学への進学を検討する皆さんに理解してほしい、そして活用してほしい制度です。

○「障害者差別解消法」とは

この法律は、障害のある人に対する「不当な差別的取扱い」を禁止し、「合理的配慮」と「環境の整備」を求めるものです。これにより、障害のある人もない人も共に生きる共生社会を目指しています。令和6年4月1日から施行される「改正障害者差別解消法」では、事業者に対しても合理的配慮の提供が義務付けられることになりました。

○「合理的配慮」とは

合理的配慮は、障害のある人が他の人と平等に社会に参加できるよう、必要な調整や変更を行うことを指します。具体的には、障害のある人が直面する障壁を取り除くために、過度な負担とならない範囲で、職場や学校、公共施設などで特別な対応を提供することです。
合理的配慮の具体例としては、以下のようなものがあります。

・物理的環境の改善：バリアフリーな施設の整備、段差の解消、手すりの設置など。
・時間や場所の調整：試験時間の延長、別室での受験、勤務時間の変更など。
・補助器具の提供：車いす、補聴器、拡大文字の資料などの提供。
・人的支援：介助者の配置、手話通訳の手配、学習サポートなど。

例えば、大学進学に際し、大学側は過度な負担にならない範囲で、障害を持つ学生に対し、入試や授業、試験などで配慮を提供する努力が求められます。

○「重度訪問介護利用者の大学修学支援事業」とは

障害者総合支援法に基づく国の補助金制度により、市町村が障害のある人に必要な支援サービスを提供する事業で、実施する自治体は年々増えています。この事業は、従来は在宅でしか受けられなかった重度訪問介護に対する改善策として設けられました。大学等が必要な支援体制を構築するまでの間、大学等への通学および敷地内での身体介護等を提供し、障害者の社会参加を促進することを目的としています。詳細については、各自治体のウェブサイトをご覧いただくか、お住まいの障害福祉を担当する窓口にお問い合わせください。

参考資料情報（外部リンク）

改正障害者差別解消法が施行されました：内閣府
https://www.cao.go.jp/press/new_wave/20240520.html

合理的配慮サーチ（内閣府）
https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/jirei/

1-4. 合理的配慮とは：JASSO
https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_shogai_kaiketsu/kiso/kiso1_4.html

---

地域生活支援事業 - 厚生労働省
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaishahukushi/chiiki/index.html

---

地域生活支援事業及び地域生活支援促進事業に位置付けられている事業一覧
厚生労働省
Microsoft PowerPoint - ÇŽ1-1 0ß˜;/ô‰m»IÜ©Ñn;j‰ôW–¹ ä„ t¦‹ŠH .pptx (mhlw.go.jp)

重度訪問介護利用者等大学等修学支援事業 - 神戸市
https://www.city.kobe.lg.jp/a95295/service_introduction/syugaku.html.

千葉市重度訪問介護利用者等大学修学支援事業 - 千葉市
https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/koreishogai/shogaifukushi/jyuhoudaigaku.html.

重度障害者大学等修学支援事業について - 練馬区
https://www.city.nerima.tokyo.jp/hokenfukushi/shogai/nichijo/kaigo/daigakusyugaku.html.

※検索キーワード
「○○○市・区・町・村　重度訪問介護利用者等大学等修学支援事業」で検索してみて下さい。

②最近の動向：障害者白書「令和 5 年度障害者施策の概況」より

○障害者白書の概要

障害者白書は、「障害者基本法」に基づき、毎年「障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本方針」を解説し、施行に向けた政府の施策を紹介しています。本書を通じて、障害学生支援に関する国の方針を理解することができます。

○令和 5 年度版 障害者白書のポイント

・修学機会の確保

障害のある人が高等教育への進学を断念しないよう、文部科学省は修学機会の確保を重視しています。具体的には、出願資格の改善や合理的配慮の提供により、障害のない学生と公平に入学試験を受けられる環境を整備しています。

・支援の周知と充実

文部科学省は、修学支援の在り方について検討結果を取りまとめ、周知することで関係者の理解促進を図っています。また、各大学等に蓄積された知見や支援手法を共有し、補助事業を通じて連携ネットワークの構築を支援しています。

・法律改正に伴う対応

改正障害者差別解消法により、私立大学等でも合理的配慮の提供が義務化されます。文部科学省はこの法律改正について周知し、学生の意思を尊重した対応を求めています。

参考資料情報（外部リンク）

令和 5 年版 障害者白書 全文（PDF 版）内閣府
https://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/r05hakusho/zenbun/index-pdf.html

令和 5 年版　障害者白書　障害のある子供に対する福祉の推進　内閣府
https://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/r05hakusho/zenbun/pdf/s3-1-6.pdf

③障害学生支援における具体的な取り組み

障害のある学生を支援するための様々な事業があります。
以下は、文部科学省や日本学生支援機構（JASSO）が提供する主要な支援事業です。

- **障害のある学生の修学、就職支援促進事業（文部科学省）**
  障害のある学生の大学進学や就職を奨励する事業です。

- **障害学生受入促進研究委託事業（日本学生支援機構）**
  大学での障害学生の受け入れとサポートを向上させるための事業です。

- **障害学生就学支援ネットワーク（日本学生支援機構）**
  障害学生への支援を行う大学を拠点校とし、専門的な研究機関と連携するネットワークです。

参考資料情報（外部リンク）

障害のある学生支援（文部科学省）
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/gakuseishien/1382209.htm

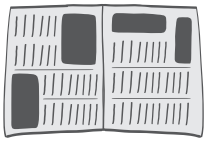
障害のある学生の修学・就職支援促進事業ポンチ絵（令和３年度選定分）(文部科学省)
https://www.mext.go.jp/content/20210520-mxt_gakushi01-000015020_06.pdf

障害学生受入促進研究委託事業（高大連携）（JASSO）
https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_shogai_koudairenkei/

障害学生修学支援ネットワーク（JASSO）
https://www.jasso.go.jp/gakusei/tokubetsu_shien/shien_network/index.html

朝日新聞 DIGITAL より

～重度の障害がある学生の大学進学に関する関連記事～



毎年、当科に通院している DMD の皆さんから大学進学の報告を受け、障害を持つ方々の大学進学のハードルが徐々に低くなってきたと感じています。大学側の受け入れ体制が整備され、入試から大学生活までスムーズに支援を受けながら、大学生活を楽しんでいる方も多く見受けられます。しかし、依然としてスムーズに進まないケースもあります。以下の記事では、地域や大学によって支援体制や受け入れ体制に差がある現状について詳述されています。ぜひご参考にしてください。

参考資料記事（外部リンク）

重い障害、大学で学んじゃダメですか？「支援体制ない」断る事例も 朝日新聞 DIDITAL
https://www.asahi.com/articles/ASQ2Q56K0Q1KPTLC01K.html.

重度障害あっても大学進学支えます 国の制度導入 5 年も利用わずか 朝日新聞 DIDITAL
https://www.asahi.com/articles/ASR437QGKR1LUDCB00R.html.

2．入試の準備～大学入学まで

①入試の手続き

大学入試を受ける際には、試験時間の延長、別室での受験、介助者の同伴など、受験上の配慮（合理的配慮）を申請することができます。合理的配慮の例については、独立行政法人大学入試センターの「大学入学共通テストにおける受験上の配慮案内」を参照するか、「○○大学　合理的配慮」といったキーワードで検索するとよいでしょう。

入試の際の配慮や手続きは各大学によって異なりますので、事前の情報収集と準備が大切です。

参考資料情報（外部リンク）

入学試験・高大連携 JASSO
https://www.jasso.go.jp/gakusei/tokubetsu_shien/shogai_infomation/handbook/06.html

令和６年度 大学入学共通テスト受験上の配慮Ｑ＆Ａ
https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/kako_shiken_jouhou/r6/hairyo_qa.html

令和５年度 受験上の配慮案内 - 独立行政法人大学入試センター
https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/kako_shiken_jouhou/r5/r5_hairyo.html

早稲田大学入試センター - 早稲田大学
https://www.waseda.jp/inst/admission/undergraduate/special_needs/

立命館入試情報サイト - 立命館大学
https://ritsnet.ritsumei.jp/admission/disability.html

はじめて障害のある学生を 受け入れるにあたって - JASSO
https://www.jasso.go.jp/gakusei/tokubetsu_shien/shogai_infomation/__icsFiles/afieldfile/2021/03/12/firstguidebook2016.pdf

②大学合格後の支援体制の整備と調整

大学に合格した後は、大学側および自治体と連携して、大学生活を円滑に送るための支援体制を整えることが必要です。最近では入試方式が多様化しているため、合格通知の時期は 12 月初旬から 3 月まで様々です。そのため、入学までに支援体制の準備が整うかどうかは各ケースによって異なります。

入学後しばらくの間は、家族が付き添って支援体制を整える場合もあります。また、希望する支援がすべて受けられないこともあるため、その点を考慮する必要があります。具体的な手続きや必要な書類については、大学および自治体に個別に問い合わせて確認してください。

参考資料情報（外部リンク）

厚生労働省・障害者総合福祉推進事業 平成 29 年度成果報告書
「大学等に通学する重度障害者に対する支援体制構築の体系化」 - 筑波大学
https://dac.tsukuba.ac.jp/shien/wp/wp-content/uploads/h29_report_mhlw.pdf

重度の障害がある学生の大学側・自治体による支援体制の
構築・整備するプロセスをケースレポートとして掲載しています。

厚生労働省障害者総合福祉推進事業平成 29 年度成果報告書
「大学等に通学する重度障害者に対する支援体制構築の体系化」
- 公益社団法人全国脊髄損傷者連合会
https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_shogai_kaiketsu/column/__icsFiles/afieldfile/2021/03/10/support2017_1.pdf

---

令和 3 年度 (2021 年度) 障害のある学生の修学支援に関する実態調査 - JASSO
https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_shogai_syugaku/__icsFiles/afieldfile/2022/08/17/2021_houkoku_2.pdf

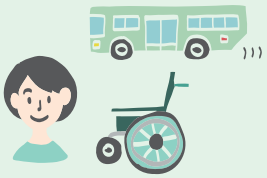
---

＜付録＞障害がある学生の大学進学に関するサイトや支援団体

以下は、大学進学を検討、準備するために参考にして頂けるサイトや団体です。一部ですが掲載します。

自立生活センター（CIL）

自立生活センター（CIL、Center for Independent Living）は、障害をもった当事者が中心となって地域の障害者の自立生活をサポートする団体です。当事者主体のサービス機関で、介助者派遣事業、自立生活のノウハウを伝える自立生活プログラム、ピアカウンセリング制度や住宅などの相談事業、移送サービスなどのサービスを提供しています。全国各地に 120 ヶ所以上あります。
最近は、大学との配慮の調整や利用できる福祉サービスの情報提供やアドバイス、ヘルパー派遣などに関して CIL を利用される方が増えています。



全国自立生活センター協議会
http://www.j-il.jp/activity

東京都自立生活センター協議会（TIL）
https://tokyoilcenters.web.fc2.com/

CIL 小平
https://cilkodaira.net/

独立行政法人日本学生支援機構 /JASSO

大学、短期大学および高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する調査を行っています。このサイトでは、障害のある学生の大学進学の背景や現状、課題や取り組みなどについて、詳細なレポートや資料をダウンロードできます。

独立行政法人　日本学生支援機構
https://www.jasso.go.jp/index.html

一般社団法人　全国障害学生支援センター

全国すべての大学の障害者受け入れを調査して、個別の大学の状況としてまとめた『大学案内障害者版』を発行しています。このサイトでは、受験・在籍・卒業状況、入学試験での配慮や入学後のサポート、設備の状況など数百項目について、書籍と Web サイトで情報を公開しています。また、障害別や分野別に大学進学に関する Q&A やコラムも掲載しています。

一般社団法人　全国障害学生支援センター
https://www.nscsd.jp/Activities/DaigakuAnnai/

全国大学生協連

障害学生の実状と大学の対応の実態に関する調査を行っています。このサイトでは、障害者差別解消法や障害者権利条約の推進状況、障害のある学生の増加傾向やニーズ、大学や生協が行っている支援事例などについて、記事やグラフで紹介しています。

全国大学生協連
https://www.univcoop.or.jp/about/life/vol56-01.html

DO-IT Japan

多様な障害を持つ学生が大学進学を検討、準備するために有益な情報を提供している団体です。この団体は、障害のあるあるいは病気を抱えた高校生や大学生が参加する大学・社会体験プログラムを運営しています。

DO-IT Japan
https://doit-japan.org/

『おわりに』

本冊子を通じて、当科に通院する先輩の皆さんの大学進学の現状や障害を持つ学生の大学進学および大学生活を支援するための制度や具体的な支援策についてご紹介しました。先輩方の経験談や具体的な支援策を参考に、皆さんが自分らしい進路を見つけ、充実した大学生活を送ることを心から応援しています。

また、何か困ったことや分からないことがあれば、遠慮なくご相談ください。私たちスタッフ一同、皆さんの大学生活を全力でサポートしてまいります。

最後に、皆さんの毎日が明るく、充実したものとなることを心からお祈りしています。

本冊子がその一助となることを願っております。

身体リハビリテーション部　作業療法部門

この冊子の発行にあたって

大学への進学は、ご本人、ご家族ともに大きな環境や生活の変化を伴う出来事です。生活環境の変化は、心身ともに大きな負担になると同時に、大きな不安を伴います。この冊子が、大学への進学に際して、少しでも皆様のお役にたてればと思っております。

身体リハビリテーション部　部長　原 貴敏

本冊子の作成にあたり、ご協力頂いた皆様、ご指導いただいた脳小児神経科の小牧宏文先生、本橋裕子先生、竹下絵里先生、スタッフの皆様に心より感謝申し上げます。

MEMO

MEMO

非売品　本冊子内の文章・イラスト等の無断転載・引用はご遠慮ください。

国立研究開発法人　国立精神・神経医療研究センター病院
身体リハビリテーション部　作業療法部門
2025 年 1 月発行

NCNP